

月齡	二七	虹帶寫真	一六二、一六五
原素(太陽中の)	一三	虹帶寫真器	八
紅燭	三六	琴座	六七
紅燭觀測法	一五	琴座のエプシロン	六八
恆星	七	琴座の環狀星雲	二〇三
恆星虹帶分析	一八七	琴座のベータ	八三
恆星光度	五	「コリメトル」	一四
恆星周期	二六	サ	
恆星狀星雲	二〇二	三體の問題	七
恆星分類	六	三瓣星雲	九二、一〇五
恆星類型	六	三稜玻璃	一四
格子	一四	三聯星	七四、一〇二
虹帶	一四	三聯線(虹帶の)	一四
		暫星	八六、三九

シ	四〇、七	焦點外(望遠鏡の)	一六
シエヘルム	九	章動	一四
周期變光	一六	正面速(發光體の)	一五
シヅルツシルド	一七、一八	正面動	三、六
視覺	七	小遊星	三
視軌道	一四、一八	灼熱(氣球)	二二、二六
紫外部	附三	寫真裝置	一六
子午圈	一八	寫真術	八
視差	一九	主星	七〇
潮(月面の)	二九	須彌說	二二
潮(海水の)	二九	織女	五、五四
潮の効果	三三	視力と寫真	一五九
シイナ	一五	「シロスタット」(映天儀)	一六四
小衛星觀測	一五、一六	進化か	二四六
焦點(軌道の)	五	新天文學	一〇、一四

新月	二六、七	人類中心説	二頁
新原素(太陽中の)	一八		
真離心角	六	ス	
從星	七	彗星	三、三二
十二宮	四	水星	三
時間の無究	二七	彗星族	二六
磁氣擾亂	四	彗星の尾	三三、三六
磁氣の効果	一四	彗星の生地	一三
實効溫度	四	彗星の軌道	二五
自動(恆星の)	五	彗星の崩潰	一三〇
自動(太陽の)	三	彗星の密度	二四
ジャベトス	二六	水素	三六
循環作用	二五	水素星	一九〇、二四〇
受盤	一四	水素彗片	一七〇
神代の天文學者	二四	水蒸氣(大氣中の)	一八三

水準器	一五	星狀星雲	二〇〇
水準の區別(太陽の)	一七	星雲素	一〇一、一三五
水平面	一四	星雲素(オリオン星雲の)	二〇四
スウニエデンボルグ	二〇七	星雲假説	二〇八
スキヤバレリ	一四〇	星座	附五
ストルウヴェ	七	正照鏡	一四六、一六五
スポエラ	三六	星象寫真圖	一六一
		星食	八二
セ		星辰界	六
星雨	一三	星辰進化論(書名)	一
星雲	七、八	星團	七、七四
星雲の二種	二五	星團(變星に關し)	九
星雲の變動	九	星團と星雲	一六
星雲の寫真圖	九	星名簿	一三
星雲の密度	一五	精微比較鏡	一三

赤緯	附四	彗片	一七〇
赤下部	一四六、一八〇	ゼエマン	一五四
赤經	附四		
赤層	三六	リ	
石炭囊	八九	雙曲線	一〇一
赤道(地球の)	一四	雙星	六
赤道儀	一六三	雙線(虹帯の)	一五四
セッキ(太陽につき)	四〇	相對加連	一〇七
セッキ(恆星の分類)	一八	相對軌道	七一
折衷分類(恆星の)	一九〇	測地學	一一、一四
攝動	二七、一〇二	測微鏡	一六一
攝動力	一〇一、一〇四	族流(星の)	三
攝動の効果	一六		
渲刷(虹帯)	一九、二四	夕	
線狀虹帯	一四八、一四九	太陰	三、三

太陰の大きさ	二四	太陽の自轉	三
太陰の大氣	二四	太陽の構成	三
太陰の相貌	二五	太陽實速	六
太陰の周行	二六	太陽の經費	四
太陰の視差	二七	太陽の光力	四、五
太陰の自轉	二八	太陽の溫度	四
大氣	二〇	太陽基數	四
大氣の密度	三三	太陽向點	三
大氣保持力	二八	太陽を恆星として	一六
太陽	三、三	太陽の成分	一七
太陽の大きさ	三	太陽の研究	二五、二五
太陽の距離	三	太陽の生命	二五
太陽の密度	三	太陽虹帯	一五
太陽の質量	三	太陽系	三
太陽の外観	三	太陽系の按排	二〇八

太陽系の恆久	一八	チニムバリ	二六
太陽系の發生	二〇	地球	二
太陽系一覽	附三	地球の形と寸法	三
太陽星	一九、二四	地球の密度	一五
大遊星	三	地球の質量	一五
對照虹帶	一四	地球の内部	一五
對物玻璃板	八、一六	地球の自轉	一六
單線(虹帶の)	一四	地球の周行	一八
炭素星	一九、二四	地球の起す潮	二五
短扁球	一四、二〇	地球太陰系	二四
ダウイン	二二	地球線(虹帶の)	一八
橢圓率	一四、二〇	地球系遊星	三
斷續虹帶	一七	地型	一四
		地殼	一六
		地質學	二二、二五

チチウス	一六	天球	一七、附一
チットマン	一四	天球の中心	附一
地動の効果	九	天質學	一〇
地文學	三	「テニス」米	一四、一六
潮論	三三	天體	八
潮汐進化説	三三	天體力學	九
チャンドラフ	九	天頂	附三
		天動説	三、九五
		天之軸	附三
ツ	三	テニバル彗星	二八
月	三	天狼	五四
		天王星	三
テ		テカルト	二〇七
梯形(オリオン)	二〇三、二〇六	テネブ	二四一
テブット氏彗星	一三五		
天界の塵	一一〇、一五〇		

ト	頭部(彗星の)	一三三	ニウオナル	七六
	時計仕掛	一三三	ニウトン	七〇、九八
	動量能率(太陽系の)	二二九	乳路(天の川)	八七
	ド、ヅィコ氏彗星	一三五	肉眼星	五三
	土星	三	二星の接近	三六
	土星の環	二三	二十八宿	附五
	ドナチ氏彗星	一三五	二體問題	一〇〇
	ドブラフ、フイゾオ原則	夫、一五	日射計	一七三
ナ			日食	三〇
	ナトリウム	二四九	日食皆既	三六
	南魚座のアルファ	二四一	ニ	一四六、一七二
			熱線(虹帯の)	二五二
			熱浪費	二五二
			熱(放射の一態として)	一七二
			熱線(虹帯の)	一四六、一七二
			熱浪費	二五二

ネビュラ	七	白道	二七
ネビュラム	二〇一	白熱體	一四九
年視差	一九、五四	發光體	一五〇
粘性(天體實質の)	二三五	ハシニル	四〇、四三、六八
		ハツギンス	二七
		ハリ、氏彗星	一四
		半影部(斑點の)	一七
		斑點	三二、三七
		斑點の發生	九
		斑點出現期	四
		斑點代表數	四
		斑點の分布	四
		斑點と地球	四
		半長軸(軌道の)	六
		半年視差	二〇
ハ			
ハツァアド分類(恆星の)	一八九		
白色星雲	一五五、一六		
白鳥座光斑	附二		
白鳥座の星雲	八、三		
白鳥座六一番	七		

バナナード	一五	復活作用	二五二
馬蹄状星雲	九	浮光	三三、一七〇
肥大線(虹帯の)	一五四	複聯星	七三
ビエラ氏彗星	一三五	不偏色	一七五
微温計	一三	フラオンホッフアア	一四一
微遊星假説	二六	フラオンホッフアア標準線	一七九
ビッケリッ(恆星光度につき)	五、一六	フワイユ	三九
ビッケリッ(太陽光輝)	四	フワイユ(對ラプラス)	二二五
ビッケリッ線列	二六	噴火口	二五
フ		ブイフオン	二〇七
フォッゲル	五、八	ブラッドレイ	一四
フォッゲル(恆星分類)	一〇	ブルウス氏虹帯寫真器	一六五
		プロルセニ氏彗星	一三五
		分解(小星に)	七、七五、八七
		分光器	一四七

分光虹帯	五	ヘイル教授	一、一七四
分光太陽寫真	一六	ヘイル分光太陽寫真儀	一六七
分光太陽寫真儀	一六七	標準虹帯	一五一
分光による聯星	七、七、七、八二	標準星	五二
分析(光線を)	一四	ヘリウム(太陽中の)	三六、一八四
ブレリオン	二六	ヘリウム星	一九〇、四〇
ブレリアデス(昴宿)	四	ヘリウム星(陽線ある)	一九三
ブレセベ(鬼質)	四	ヘルダレス座のイエタ	五
プロキオン	二四	ヘルムホルツ(太陽收縮)	四九
プロキオン(聯星)	三	偏光計	一七五
平均距離	五	變光曲線	八〇
ヘイフォード	一四	變星	七五、七六
ヘイル(斑點の磁場につき)	一四	變星の分類	八五
		變復	一四九
		變復層(太陽の)	三六

變復層(恆星の)	九〇	薄明(ほのぼ)	九六
ベッケレル	一八一	捕虜説	一三七
ペロポルスキ	五	昴宿(プレイアデス)	七四
ペニタス(聯星につき)	七	卯酉圈	附四
<b>ホ</b>		<b>マ</b>	
放射歴	二五〇	マイヤ	四
放射威勢	三五、七	マイヤ(變星につき)	八三
放射活動	二四	マジエラ星群	七
放射能作	一四	マックスウエル(土星の環につき)	二五
放射能率	四	<b>ミ</b>	
拋物線	一〇一	「ミクロレ」	一三
北光	四	未見原素(太陽中の)	一八
北斗	附五	ミチエル	七五
北斗(族流)	六		

ミラ	八四	メルトデム	四
ミラ(虹帯)	一四	<b>モ</b>	
<b>ム</b>		濃氣	二四
霧光(星雲)	九	濃氣を帯ぶ	二六
無定形星雲	二〇三	モルト	二六
無始無終	二四七	木星	三
無餘涅槃状態	二五二	<b>ヤ</b>	
<b>メ</b>		陽線(虹帯の)	一四八
メシエ一三號	五	ヤング	三、四〇
メシエ二〇號	二五	<b>ユ</b>	
メシエ三三號	九〇	遊星狀星雲	二〇〇
メシエ九七號	二〇〇		
メシエ一〇一號	九		

ラ

ライト

二〇七

ラディウム

五〇、五二

ラディオアクティビティ

二四五

ラプラス

二〇八、二二

ラングレイ

四七、四二

ラングレイ(微温計)

一七

ランベルト(宇宙観)

六三

リ

流星

四、三二、三六

流星群假説

二六、三〇

リッター

二四九、二五

リトロウ氏虹帯寫真器

一六五

綠色星雲

一七

磷光性

一八一

ル

ルヴェリエ

一六、二〇、二四〇

レ

レイ

二四五、二五三

聯星

七、六五、七〇

聯星の著しき例

七一

連續虹帯

一四八

ロ

老人(カノプス)

六七

ロウランド

一五二

ロウランド(太陽成分)

一八五

ロシ

二二九

ロックヤア

〇、四三

ロックヤア流星假説

一九七、二〇〇

索引終



跋

隠レタル學者アリ。一微職ヲ守ルコト二十五年。己酉歲洽ク歐米ノ學府ヲ訪ヒ、歸來其ノ蘊蓄ヲ傾ケテ、吾ガ讀書界ニ貢獻セムトシ、先ヅ本篇ヲ公ニス。斯學進歩ノ狀況ヲ小冊子ニ縮收シテ、且吾人門外者ニ教フル懇切ナルヲ見ル。汎ク世ニ行ハレテ著者ノ努力ニ辜負スル無カラムコト期シテ待ツベク、將又第二第三篇ノ續出セムコトヲ祈ルト云爾。

癸丑初冬

東嶺迂客

大正八年十月十八日印刷  
 大正八年十月廿一日發行  
 大正八年十月十八日印刷  
 大正八年十月廿一日發行

●●●  
 大正八年十月十八日印刷  
 大正八年十月廿一日發行



●●●  
 宇宙之進化 奥附  
 正價二圓四十錢

著者 蘆野敬三郎

發行者 東京市日本橋區本石町三丁目十六番地 株式會社 博文館  
 右代表者 取締役社長 大橋進一

印刷者 東京市神田區一番田 山口信勝

印刷所 東京市神田區一番町 愛善社

發行所 東京市日本橋區本石町三丁目 株式會社 博文館

萃拔類書哲學

- 中江兆民君著 ● 刷縮正一年有半 正價壹圓二十錢 送料八錢
- 藤井文學博士譯 ● フネン・キルヒマン 哲學汎論 正價八十五錢 送料十錢
- 井上文學博士譯 ● ドイツ センツ 純正哲學 上下 正價八十五錢 送料十錢
- 岡島文學士著 ● 最西洋哲學史 正價八十五錢 送料十錢
- 宇井文學士著 ● 參論 心理學 正價八十五錢 送料十錢
- 德谷文學士著 ● 近世心理學 正價八十五錢 送料十錢
- 菰田文學士著 ● 倫理學 正價八十五錢 送料十錢
- シドニー ギユリツク氏著 ● 人類進化論 正價金貳圓 送料十八錢

株式會社博文館

萃拔類書教宗

- 姉崎文學博士著 ● 宗教と教育 正價金壹圓 送料八錢
- 同 君著 ● マルト 宗教哲學 正價八十五錢 送料十錢
- 工藤法學士著 ● 世界宗教制度論 正價各八十五錢 送料十錢
- 南條文學博士譯 ● マクス、ミューレル 比較宗教學 正價八十五錢 送料十錢
- 融文學士譯 ● エドワード ナヤード 宗教進化論 正價壹圓四十錢 送料十八錢
- 石原文學士著 ● 佛教哲學汎論 正價八十五錢 送料十錢
- 前田文學博士著 ● 佛教美術 正價貳圓八十錢 送料十八錢
- 姉崎文學博士著 ● 根本佛教 正價參圓五十錢 送料三十錢

株式會社博文館

意志と現識との世界

著者 ヨハン・ペツヨシ氏

文 學 博 士

姉崎正治君譯

シヨ氏の哲學は近世思想とギリシア思想との融合、東洋思想と西洋哲學との連鎖。徹透の思想と剔抉の論議とを以つて、高遠の理想を宣べ、寂靜の福音を傳ふ。その大著作は彼れが死後滿五十年の記念として發刊せられたり。今やこの大哲の明文は茲に姉崎博士の流暢なる口語に依りて譯出せられ、特に原著の論調語氣を寫すに勉められたれば從來哲學書は難解なりとの誤解もこの一書に依りて一掃されん。出版者たる本館も、亦この廉價を以て不朽の傑作大譯書を世に提供するを以て敢て誇とせん。

博 文 館 發 行

全 部 三 冊

菊 列 總 夕 日 一 冊 特 裝

上 卷  
紙數七百五十餘頁  
正 價 貳圓八拾錢  
送料十八錢

中 卷  
紙數六百四十六頁  
正 價 貳圓八拾錢  
送料十八錢

下 卷  
紙數七百五十餘頁  
正 價 貳圓八拾錢  
送料十八錢

349  
185

11.11. 6

終

